

校友会報

日本大学工学部校友会
第83号 令和2年3月1日



INDEX

- ごあいさつ 2
- 平成31年度第62回通常総会 3
- 台風19号被災支援金のお知らせとご報告 3
- 第27回卒全学科合同同級会 4
- クラブ・OB・OG会報告 7
- 支部活動 8
- 工学部校友会校友企業の皆さんへ 10
- 校友会組織・歴史資料編纂委員会からのお知らせ 11
- 台風19号被害から防災を考察する 12
- 日本大学工学部が推進する産学官連携活動(3) 14
- 学生の活躍 16
- 郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター 校友企業家紹介 17
- 私のラグビー人生と日本ラグビーの飛躍 18
- 頑張り記 19
- 令和2年度通常総会通知・第40回母校を訪ねる会 20



表紙の QR コードをスマートフォンで読み取ると、校友会のホームページをご覧いただけます。



ごあいさつ



工学部長 出村 克宣

令和2年の早春を迎え、校友の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨年度は、元号が平成から令和となり、日本大学創立130周年の記念すべき年でありました。そのような中、台風19号の影響により、工学部と東北高校の西側を流れる阿武隈川からの越流水によって、郡山キャンパス内の建物全てが床上浸水するという工学部創設以来はじめての大災害が発生しました。

しかし、「工学部の教育・研究環境を被災前の状態に戻す」というメッセージを発し、教職員一丸となって、その復旧に取り組み、約3週間の休講を要したものの授業を再開しました。この原稿を執筆している年末においても、建物1階部分の復旧、実験装置の入れ替え作業などが続いておりますが、教育活動には支障のない教育・研究環境が整ってきました。

一方、今後も発生する恐れがあるこの種の災害に対処すべく、二つのタスクフォースから成る「キャンパス強靱化プロジェクト」をスタートしました。一つは、水害に関する現象を正確に把握すると共に、災害の詳細なメカニズムの分析及び解明、もう一つは、キャンパス周辺の学生の住環境及び避難行動の実態把握と災害時の避難行動のあり方の提言を目的としています。

なお、工学部では、「ロハスの工学」という考え方を導入して20年が経過したのを契機に、「ロハスの工学」を「ロハス工学 (LOHAS Engineering)」と呼称を改めて、広くその概念を発信していきたいと考え、昨年2月には、書籍「ロハス工学」(発行：日経BP社)を発刊するに至ったことをご報告致します。

結びに、昨年度の被災に対しましては、日本大学校友会本部並びに、工学部校友会及び他学部校友会を通じて多くの校友から、多大なるご支援を頂いております。皆様からの支援金につきましては、被災学生を対象に給付する災害奨学金として使用させていただきます。ここに記し、衷心より御礼を申し上げます。

校友諸氏のご健勝とご活躍はもちろんのこと、工学部校友会の更なる発展を祈念致します。



校友会会長 中野 伍朗

校友の皆様におかれましては、益々ご健勝、ご活躍のこととお慶び申し上げます。平素は校友会活動に対しご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。

昨年10月の台風19号により母校と学生に甚大な被害がもたらされました。被害に遭われた被災者の皆様に対して謹んでお見舞い申し上げます。

このたび、工学部校友会は卒業生の皆様から、台風19号による洪水によって被災した学生に対し、支援のための「日本大学工学部校友会台風19号災害支援金」をホームページなどで募りましたところ、多くの皆様からご賛同を頂き、支援金をご寄付頂きました。ありがとうございます。引き続き今年10月まで支援金を募集させて頂いておりますので、ご支援をよろしくお願いいたします。

昨年は災禍のため学部祭が中止となり、例年校友会参加事業として行って参りました母校を訪ねる会、キャンパスツアー、校友茶会の開催は残念ながら見送りとなりましたが、今年は例年通り開催・支援させて頂く予定です。

また、給付型奨学金制度の充実や学部祭への協賛、母校を訪ねる会、就職対策などの側面的支援を通じ、母校の更なる発展に寄与して参る所存です。特に「正会員の拡充」に関しては積極的に取り組んで参ります。

一方、工学部校友会として、新しく組織された工学部後援会の事業にも積極的に協力して参りたいと考えております。これまでも後援会地方支部と連携を強めている県支部もありますが、さらに連携を段階的に増やしていきたい、今後とも後援会と校友会が連携を密にして物心両面の様々な学生支援事業が展開できれば幸いです。

全国の校友の皆様のご理解、ご協力を頂き、今後も前向きな姿勢で開かれた校友会を目指して参ります。特に若い校友の皆様にも大いに参画・活動して頂ける環境作りを整備して参ります。

また、工学部教職員の皆様の平素からのご支援、ご協力に感謝申し上げます。これからも工学部ならびに工学部校友会が連携して車の両輪となり、母校の発展に寄与できれば幸いです。

最後になりますが、校友の皆様におかれましては、今後とも工学部校友会に対して変わらぬご支援、ご理解を賜りますようお願い申し上げますと共に、日本大学と工学部の更なる発展を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

平成 31 年度 第 62 回通常総会

平成 31 年 4 月 20 日(土)、工学部 62 号館 3 階大講堂にて平成 31 年度通常総会を開催しました。議事に先立ち校友会功労賞受賞者の発表が行われ、工学部校友会本部より 2 名、支部より 1 名の方々が紹介されました。

議事では議長に小山田克己氏(土 5)、議事録署名人に田中敏夫氏(建 19)、土岐悦雄氏(建 20)、書記に佐藤祐一氏(土 26)、柳沼由美子氏(化 30)をそれぞれ選出。報告事項、承認事項、議案事項は賛成多数で可決されました。

総会後に行われた懇親会では日本大学本部をはじめとした来賓の皆様にご臨席いただきました。工学部応援團

による演舞も披露され、平成最後の通常総会懇親会は盛会の裡に幕を閉じました。

● 校友会功労者の表彰

本会の会務遂行並びに発展に貢献した以下の 3 名が功労賞受賞者に決定しました。(敬称略)

支 部	氏 名	卒科回	活 動 歴
工 学 部 校友会本部	加藤木 研	電12	当会会長を歴任
工 学 部 校友会本部	長澤 幸二	電20	当会副会長を歴任
教 員 部 会	行場 義修	建30	教員部会北海道支部事務局長を歴任(故人)



台風 19 号被災支援金のお知らせとご報告

校友の皆様には日頃より校友会活動へのご協力、ご支援をいただき御礼申し上げます。
ご存じのように、昨年 10 月 12・13 日の台風 19 号による洪水により、母校と学生にも甚大な被害がもたらされました。被災されました皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

そのため、日本大学工学部校友会は卒業生の皆様から、台風 19 号による洪水によって被災した母校、学生に対し、支援のための支援金を募りたいと思います。皆様から頂いた寄付金は全額、上記支援金のために使われます。つきましては、「日本大学工学部校友会台風 19 号災害支援金」を下記により募集しておりますので、何卒ご賛同、ご支援をお願いいたします。

なお、今回の支援金に対するご協力について、校友会関係者から直接皆様のご家庭にお伺いしたり、お電話またはメール等でお伺いしたりすることはありません。

- 1、支援金の名称／日本大学工学部校友会台風 19 号災害支援金
- 2、実施組織／日本大学工学部校友会 会長 中野 伍朗
- 3、支援金の募集方法／下記のいずれかの銀行口座にお振込みをお願いします。
■秋田銀行(銀行コード 0119) 郡山南支店(支店番号 476) 普通預金口座 1842
日本大学工学部校友会(ニチダイコウガクブコウユウカイ)
※口座名の漢字と読み方が違いますのでご注意ください。
■ゆうちょ銀行 郵便振替口座／口座記号番号 02240-6-128058
日本大学工学部校友会(ニホンダイガクコウガクブコウユウカイ)
※他行からの振込口座(店番号 229) 当座預金 0128058
日本大学工学部校友会(ニホンダイガクコウガクブコウユウカイ)
- 4、支援金募集期間／令和元年 11 月 11 日(月)～令和 2 年 10 月 31 日(土)



● 寄付者ご芳名 (敬称略・アイウエオ順)

令和 2 年 1 月 31 日現在

桜門技術士会／川田靖建築設計事務所／川辺和洋／工化 17 回卒・令和元年同窓会参加者一同(代表：加藤義裕)／国府田文彦／後藤あずさ／小松和幸／高木圭介／田代賢吉／田中久己／寺山哲／中野伍朗／日本大学秋田県桜工会／日本大学医学部同窓会／日本大学工学部校友会関東支部／日本大学工学部校友会関東支部栃木県校友会／日本大学工学部校友会九州支部／日本大学工学部校友会北海道支部／日本大学工学部体育会スキー部 OB 会／日本大学工科系校友会青森県支部／日本大学工科系校友会山形県支部／日本大学理工学部校友会／松田光良／村松文明／森崎俊久／山内章宏／有限会社 三挙発条製作所／渡澤正典

※上記以外の方からもご支援いただいておりますことを申し添えます。

第 27 回卒全学科合同同級会

日本大学工学部 第27回卒全学科合同同級会



台風 19 号被害により、母校を訪ねる会が中止となりました。それに伴って卒業後 10 年ごとで第 4 回目となる同級会の開催も心配されましたが、令和元年 11 月 2 日(土)にホテルハマツで、初の全学科合同で行われました。

まずは全学科合同 113 名と恩師 18 名(来賓 3 名を含む)の記念撮影を会場で行いました。次に及川広安さん(土木)による開会の辞、卒業後 40 年を代表して神藤奉則さん(機械)の挨拶、工学部長出村克宣先生および校友会会長中野伍朗氏の祝辞、酒樽の鏡開きと事務局長酒井泰志氏による

乾杯で開宴となりました。恩師代表として長林久夫先生と小川清先生の挨拶、学科ごとの集合写真、出席者全員による校歌斉唱、有我新一さん(建築)の中締めの後、金澤裕さん(工化)による工学部長への義援金(204,000 円)贈呈、閉会の辞となりました。薄皮饅頭、同級会名入の笹の川酒造 2 合瓶、日大工学部特製クリアファイルと広報をお土産に北海道から沖縄の途に着きました。

(電気 27 回卒 渡邊 博之)

令和元年、卒業 40 年後の 『全学科合同同級会』に参加して

土木 27 回卒 鈴木 雅行

卒業後 40 年目の「第 39 回母校を訪ねる会」は、昨年 10 月 12・13 日の台風 19 号により母校や工学部の学生さん達が浸水による大きな被災を受け、残念ながら開催中止となりました。しかし、工学部初となる全学科合同同窓会は幹事团のお骨折りにより、11 月 2 日土曜日の 18 時から郡山市虎丸町にあるホテルハマツ右近の間において盛大に開催されることとなり、参加させていただきました。

同級会は、全員の記念撮影の後、及川広安幹事(土木)による開式のご発声、神藤奉則幹事(機械)の代表幹事挨拶により始まりました。御来賓の祝辞は、工学部長出村克宣先生、校友会会長中野伍朗様御両名からいただき、事務局長酒井泰志様と御来賓の盛大な鏡開きのあと、懇談が始まりました。恩師の御出席は土木工学科の村田吉晴先生、長林久夫先生はじめ、17 名もの各学科の先生方にも御臨席いただき、同級生総勢 116 名、令婦人 2 名、(うち土木工学科 34 名)が北は北海道から南は九州、沖縄から集いました。

卒業以来 40 年ぶりに会う級友たちはお互い還暦を過ぎ、当時の風貌が残っている友や、かなり変わってしまった友も多くいましたが、40 年前にタイムスリップしたように、当時は懐かしみながら、話が尽きませんでした。

合同同級会の 2 時間もあっという間に過ぎ、全員による校

歌斉唱、有我新一幹事(建築)による中締め、金澤裕幹事(工化)による母校被災に対する義援金贈呈ののち、渡邊博之幹事(電気)の御発声による万歳三唱により閉会となりました。

合同同級会のあと、同じホテルハマツの 8 階にあるスカイバンケットにて二次会が開催され、40 年前の学生時代の懐かしい思い出話や、当時の空手部のアルバムを持参してくれた方など、往事を大変懐かしく思い出されました。

翌日の日曜日は母校を訪ねる会は中止になりましたが、学校関係者の御好意により開校していただき、時間の許す方は新しくなった母校や復旧中の母校を訪ねる機会を設けていただきました。

大学は 11 月 5 日より再開できるとの御報告をいただきましたが、以前の環境に戻るまでには、まだまだ時間がかかると思います。次回は令和 11 年で卒業後 50 年となります。今回参加された皆様はじめ、同級生の 1221 名の皆様が健康で、またお会いできることを楽しみにしています。

結びに、御多忙中にも係わらず、御臨席いただきました御来賓の皆様に感謝申し上げますとともに、一刻も早い母校および学生の皆様が元の勉強ができる環境になりますよう、一日も早い復旧と今後ますますの飛躍を祈念いたします。



第27回卒業生による全学科合同同級会

建築 27 回卒 有我 新一



鏡割り



建築学科 恩師と第27回卒業生たち



懇親会での歓談



懇親会での歓談



親睦ゴルフコンペ(矢吹ゴルフクラブ)

令和元年 10 月中旬、台風 19 号による豪雨で多くの河川が氾濫し、各地で甚大な災害が発生しました。

被災された全ての方々には心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧と復興をお祈りいたします。

さて、昨年のゴールデンウィーク明けの頃、機械工学科卒の神藤奉則君から、今年は卒業後 40 年であり「母校を訪ねる会」に合わせて全学科の卒業生が一堂に会した同級会を前夜祭として開催したい旨の提案があり、賛同した私は建築学科の幹事を引き受けることとなりました。各科の幹事達は母校に集まり学食などで打合せを重ね、メールのやり取りで調整を行い開催に向けた準備が大詰めを迎えた頃、台風 19 号が東日本を襲いました。

残念ながら今年度の母校を訪ねる会は中止となりましたが、関係者のご協力により「第 27 回卒全学科合同同級会」は当初の予定どおり 11 月 2 日、郡山市のホテルハマトで開催となりました。北海道から沖縄まで全国から 110 余名の同級生が駆け付け、和気あいの雰囲気の中、全員の集合写真撮影ののち開会となりました。恩師先生方の元気なご様子に安堵するとともに、もうすぐ前期高齢者になろうとしている（もうなっている？）同級生と昔話に花を咲かせ、地元酒蔵（笹の川）のご厚意で振舞われた美酒に舌鼓を打ちながらの歓談など、とても楽しい時間はあっという間に過ぎていきました。

僭越ながら壇上より中締め発声の機会を頂き、日大工学部と校友会の益々の発展と繁栄、先生方や同級生諸氏の末永いご健勝を祈念しながら、盛大な三々七拍子でお開きとなりました。

結びに、ご多忙のところご臨席された出村学部長はじめ大学関係の皆様、中野会長はじめ校友会の皆様、幹事のわがままに快く対応されたホテルハマト様、そして、合同同級会成功のため最後まで裏方として尽力された各科幹事はじめ同級生の皆様には心から感謝申し上げます。

全学科合同同級会めっちゃ楽しかったわ!!

機械 27 回卒 榊原 俊次

いやあ、年甲斐もなくはしゃぎまくりました。なんせ、40 年ぶりに会う仲間達もいたんだもの。学生時代と変わらず直ぐに誰か判った仲間もいれば、すっかり容姿が変わってしまって誰だか判らなくて長い月日が経過したのを実感した人等いろいろでした。一見見覚えの無い顔でも名札を見て思い出す者、話しているうちに思い出す者もありました。

卒業研究の担当先生や、単位を取るのが難しかった力学でお世話になった当時の担当講師方、それなりに御年は召されながらも元氣な姿を拝見して何か嬉しく思いました。

私の大学時代一番のトピックスは、3 年次の北桜祭において気の合った仲間 10 数名でライブ喫茶『ペパーミントハウス』を出店したことでした。演奏内容は当時リバイバルで流行っていた 1950 年代のロックンロール（ロカビリー）です。その時のバンドは恒例のダンスパーティーにも声が掛かり大勢の前でも披露しノリノリでした。北桜祭が終わったあと、ペパーミントハウスに係わった者全員で、どこかの河原で打ち上げの芋煮会をしたのも今となっては良い思い出です。今回の合同同級会にも、その時の仲間の多くが駆けつけ当時のことで大いに盛り上ったことは言うまでもありません。

還暦を過ぎた同級生やペパーミントハウスの仲間達もこの 40 年間、楽しい事ばかりでなく、人生の荒波に揉まれ、時にはつらい時期もあったらうに、こうして長い歳月を経て一堂に会した皆の顔には、社会的責任等のプレッシャーから解き放された安堵感と人生の喜びに溢れているように思えました。



同級会機械工学科一同



筆者は向って右から 3 人目



北桜祭ダンスパーティー風景



ダンスパーティー演奏風景



3 年時北桜祭ペパーミントハウス出店



ライブ喫茶ペパーミントハウススタッフ



ペパーミントハウスライブ風景



打ち上げパーティー



打ち上げ芋煮会



芋煮会

1 次会、2 次会、3 次会と話が弾み、気がつけば日付が変わっていました。いやあ、本当に楽しいひと時を過ごさせて頂きました。

入学当時、日大工学部は『家族大学』と云われていると聞いた記憶があります。学生同士や講師と学生の距離が凄く狭く、他の大学には無い『ほっこり』とした空気が流れているように感じます。最後に誰かが云った、『日大工学部に在籍して本当に良かった』という言葉が印象的でした。

皆さん、次回またお会いしましょう。それまで健康に留意して 10 年後にも元気な姿を見せてくださいね。今回来れなかった同胞も次回は是非顔を出してください。

第27回卒全学科合同同級会に参加して

電気 27 回卒 豊島 隆幸

10 年ぶりの「母校を訪ねる会」の開催を会報で知り、早速数少ない同期に連絡しました。それから時を置かずして「合同同級会」のお知らせ。初の合同と言う事で楽しみにしていましたが、大被害をもたらした台風 19 号。そして「北桜祭」「母校を訪ねる会」の中止との連絡を受け、諦めかけていた頃に工学部の渡邊君からの連絡を受けて待望の「合同同級会」に仲間と共に参加しました。電気工学科は 15 名と少なかったものの卒業 40 年のギャップも何のその、当時に即タイムスリップ！



時の経つのも忘れて語り合いました。何よりも今回穴戸先生がお元気で参加されていた事が特に印象深く嬉しかったです。その後の夜の郡山は、懐かしくもあり、変わりように驚きもありつつ堪能いたしました。

翌日は工学部キャンパス内を見学させて頂き、改めて被害の大きさと復旧のご苦労を感じさせられました。特に管理棟内では未だに一階部分での清掃・片付けが行われており一刻も早い復旧を願うばかりでした。今回このような大きな台風被害を受けたにも関わらず多くの同級と懇談できる素晴らしい機会を設けていただき、実行委員並びに工学部関係職員の方々に感謝と御礼を申し上げます。

今度は 10 年後！みんな元気でいようね。

卒業40年目の合同同級会に参加して

電気 27 回卒 小池 正三

同級会は、学生の頃の面影がまだ残る方、年賀状交換していたが判別できなかった方、交流が無かったが学科を越え共通の思い出を語れた方等とお話が出来、40 年を経ても同級生の繋がりを感ぜられるひと時でした。いまだに現役、定年後更に別の道を開拓、災害後地区の復興に携わる等、ご活躍されている様子も伺え、私もまだやれるとの元気を頂いています。

会場では卒研担当の松浦先生をはじめ恩師の方々のご健勝を知り得た事、新幹線の車窓からは母校を觀られた事等にも驚きました。また、参加できなかった方とも連絡を取り合い近況交換の機会を得る事もできました。

同級会に参加して

工化 27 回卒 佐竹 正規

10 年ぶりくらいで開かれた工業化学科と他科との合同の同級会に出席しました。

福島県は、台風 19 号の影響で浸水被害に遭い、参加者が少ないのではないかと心配しました。

集まったのは、工化卒業の約一割 14 名。全体で 120 余名でした。沖縄から参加してくれた方もいました。

工業化学科は、物質化学工学科、生命応用化学科と 2 度名前が変わりました。未来に続くロハス工学（健康で持続可能な生活スタイル）のもと生命応用化学科では、試薬による毒キノコとの鑑別を行い人々の健康的な暮らしを守る研究等も行っているそうです。

昭和 51 年から教鞭をとっていただいた恩師の平山先生がみえられ、当時若かった先生も定年を迎え、時の流れを感じました。ただ老けた同級生は、先生と並んでも違和感が無いように思えました。

会場はホテルハマツでの立食パーティースタイルでした。

同級会に行く前は、同級生と話が合うのか多少不安でしたが、事前に幹事から出席者名を教えてもらっていたので、最初の緊張感は、あまりありませんでした。

行って良かったと思えるのが、同級会だと思います。

同級生の中には鬼籍に入った人もいます。まあ別人のようになってしまった人もいますが、親交のあった友人の顔

は、多少変わってもすぐにわかりました。

あの人誰だっけ？と名前も思い出せない人もありました。ただ、いくつになっても性格、基本的な考え方や物事に対する姿勢は、変わらないように思います。ほぼ皆 63 歳以上になっているので、おのおのが家庭の事情、仕事の都合や親の面倒をみなければならない年齢になっています。また自分を含めて健康だとは限らない年齢でもあります。それを感じたのは受付で貰ったネームプレートの裏に緊急連絡先を記入しなければならないことでした。そうか、いつ倒れるかわからないということか…。

昭和 50 年に入学した当時は、青年の志を抱いていました。今は、健康志向の通販番組に見入ったりしています。

今後も、できる限り同級会に参加したいと思います。



クラブ・OB・OG 会報告

電気 13 回生の喜寿記念九州旅行

竹内 壽昭 吉武 皓輔 安田 悦啓

日大創立 130 周年の令和元年 10 月 29 日から、我々の 77 歳の喜寿を記念して 2 泊 3 日の九州旅行をしました。卒後 55 年目となる同期会で、全国から 27 名が JR 博多駅に集合し、豪華サロンバスで福岡・佐賀の有名な観光地巡りをしました。

1 日目の福岡市博物館では、「漢委奴国王」と刻まれた国宝「金印」や黒田節に歌われた名槍「日本号」等を拝観、博多祇園山笠でお馴染みの「櫛田神社」や空海が日本で最初に創建した「東長寺」を参拝しました。その後、博多の奥座敷である「二日市温泉」の創業 150 年の老舗「大丸別荘」に宿泊し、旅の疲れを温泉で癒した後、宴会では日本舞踊を鑑賞し、同期の差しつ差されつの酒杯に昔の思い出話に花が咲き再会を喜び合いました。宴会の締めは、「校歌・若きエンジニア」に続き、懐かしい「ボクの街・郡山」を全員で合唱し、若かりし昔に帰った気分で大いに盛り上がった初日でした。

2 日目は、元号「令和」ゆかりの地である太宰府へ行き、都府楼跡の名で親しまれる「太宰府政庁跡」や「令和」の典拠となった「梅花の宴」が開催された大伴旅人の邸宅跡等を観光しました。その後、学問の神・菅原道真公をお祀りした「太宰府天満宮」を散策し、本殿の右側の梅、道真公が左遷されて都を離れる際に詠まれた和歌で有名な「飛梅（白梅）」を見学しました。太宰府天満宮の参拝を終えて一路佐賀県の武雄温泉へ行き、この地出身の有名な辰野金吾博士が設計した「武雄温泉楼門（国重要文化財）」を見学しました。続いて、日本三大稲荷の一つである「祐徳稲荷神社」を参拝しましたが、御本殿や楼門等は総漆塗極彩色で、その偉容さは、鎮西日光と称されるものでした。2 日目の宿は、三大美肌の湯の一つである「嬉野温泉」の純和風旅館「和多屋別荘」でした。露天風呂等に浸かった後の宴会では、一人一人が「わたし

の人生の思い出」を語りながら歓談し、和気あいあいと盛り上がりを見せた後、前日同様に全員で校歌と万歳三唱で締めました。また、多くの皆さんから、3 年後の 80 歳を迎えるに当って傘寿記念同期会の開催要望があり、再会を誓ってお開きとなりました。

3 日目は、日本の陶磁器の発祥の「有田焼」の地で、先ず九州陶磁文化館を見学した後に名店街を散策しました。昼食には美味しい呼子の名物・イカの活造りを堪能し、その後、朝鮮出兵の拠点として豊臣秀吉が築いた「名護屋城址跡」を観光しました。当時は、大阪城に次ぐ規模の城で、周辺には、当時 130 の大名の陣屋と人口 20 万人を超える城下町が出現していたとのことです。天下人の執念の凄さを示す太閤道と呼ばれる 15km の軍事道路を僅か 5 か月で敷設した話、町名および交通信号機にはいまでも大名の名称が残っている話、また太閤の朝鮮半島進出の執念を燃やし続けたに違いない城跡からの壱岐、対馬と朝鮮半島の島影等、幻想的な当時の破却の姿がそのまま残る巨大な城跡に、全員が感動の連続でした。

こうして 3 日間の楽しい旅を終えたわけですが、何ごとにも屈託なく語り言い合える同期の仲間の温もりに感謝せずにはいられず、何時までもお互いに元気に頑張って素晴らしい人生を謳歌出来ますことを心から祈っている次第です。



日大工学部電気工学科第13回生 喜寿祝旅行 於 大丸別荘 令和元年10月29日

支 部 活 動

北海道

建築 25 回卒 北海道支部長 横関 一伸

第 46 回日本大学工学部校友会北海道支部総会及び懇親会は本学部を洪水が襲った後の 10 月 18 日(金)にセンチュリーロイヤルホテル札幌で 14 名の参加者にて行いました。台風 19 号の影響により、郡山より予定されていた工学部校友会及び工学部からのご出席ができませんでした。今回は、まず工学部の現状をインターネットでの写真を見てもらい、総会の予算案の再検討をして、学部及び校友会に対しての見舞金を増額し、予算案を決定しました。その後、集合写真撮影をして、懇親会へと進みました。懇親会では、工学部の現状を、北桜際中止、及び 11 月上旬までの休校と、インターネットでの確認事項を報告の後、全員での出席者現状の報告及びフリートーキングで、郡山での生活で、洪水がどの区域まで、あったのか？など、学部が 3.11 の後ようやく復旧しつつありながら、この時期に、洪水しかも 1 m 程水につかり、復旧に大変だな？学生達の生活は？という話題につきました。その後、各支会長にも、写真及び総会資料をお送りしようということで、8 支会にお送りしました。皆様と元氣いっぱいの再会を誓い日本大学の絆を、そして日本人の絆を又深める一日となりました。11 月中旬には、道南支部が開催され 10 数名が出席され、工学部の写真を見て、学部のことを心配しあったということです。

尚、北海道支部では北海道にお帰りになった方、又、新卒生の参加を歓迎しています。



関東

土木 20 回卒 関東支部長 小林 啓一

関東支部は東京都、神奈川県、千葉県、栃木県、長野県、茨城県、群馬県、山梨県の 1 都 8 県で構成されています。

本年度の活動として、2 月に東京都校友会総会、6 月に関東支部役員会、7 月に千葉県校友会総会、11 月に栃木県校友会総会を開催いたしました。また、令和 2 年秋に神奈川県校友会総会を予定しておりますので、皆様のご出席をお願いいたします。その他の活動として、2 月にアカシア会、4 月に工学部校友会本部総会、11 月に日本大学全国校友会総会に出席し校友との絆を深めております。

今年度も、大手町、横浜高島町交差点付近で箱根駅伝の応援を行いました。来年度も校友の皆様と幟を立て応援したいと思いますので、ご参加をお待ちしております。

最後に、このたびの台風 19 号により、被災されました大学関係者および多数の在校生の皆様へ、謹んでお見舞い申し上げます。今後、校友会の増々の発展と、支部活動を活性化させるためにも若い世代の参加をお願いいたします。

北陸

土木 31 回卒 北陸支部長 山本 久

校友会の皆様におかれましては、益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。

令和元年度の北陸支部総会には、校友会菅家洋副会長のご臨席を賜り、新潟東映ホテルにて 7 月 27 日(土)に開催されました。総会では山本久支部長、菅家副会長の挨拶の後、事業報告や事業計画の承認並びに、校友会北陸支部の役員改選等について協議頂きました。

懇親会には会員 38 名、旧父母会有志 5 名、総勢 44 名に参加頂きました。校友会からは学校の近況や学生活動の報告を頂き、旧父母会からは就職の内定が決まった学生に対する期待と不安の思いやこれから就職活動を迎える父母からは校友会員に相談する場面もありました。又、新会員からは新入社員として奮闘する元氣な声を聞くことが出来ました。

9 月 21 日(土)にはノーブルウッドゴルフクラブにて恒例の懇親ゴルフコンペが開催され、山本支部長が 2 連覇を果たしました。

現在北陸支部会員は 200 名程が登録し、その内 3 割程度の熱心な会員が支部活動を支えています。今後も役員はじめ顧問の諸先輩との連絡を密にし、工学部校友会会員の輪を広げ、楽しくそして助け合いながら活気のある支部を目指して取り組んでいきたいと考えています。

今後ともご指導・ご支援をよろしくお願いいたします。



東海

土木 28 回卒 東海支部長 近藤 直幸

昨年は、10月に発生した台風19号により郡山市内が甚大な被害を受け、母校も浸水等の被害があったことを聞き心配しております。お見舞い申し上げます。また、早急な復旧と復興を祈念しております。

さて、東海支部は、7月に通常支部総会を行い役員交代時期となり、私を第4代の支部長にとご指名を頂き、身に余る思いでいっぱいでした。

しかし、私のような者でも母校と校友会に微力ではありますが、貢献が出来ればと思い、お引き受けいたしました。

新しい代表役員としては、副支部長に早川幸男先輩、鈴木太君、そして私が今までなんとか務めさせていただいていた事務局長を乾高章君にお願いし、お三方に快諾いただきました。

今後の東海支部活動としましては、各役員の皆様と会員各位のご協力のもとに各方面で同窓の方々の役に立つ支部にしていきたいと考えております。

また、近年若年層の参加が非常に少なく苦慮しております。

これからは、若い同窓達が進んで参加できる行事やイベントあるいは勉強会等を企画して魅力のある支部にしていきたいと思っております。

支部でも努力はして参りますが、各支部だけでは、出来ない事が多々ありますので、是非校友会本部、母校からのご協力を切に願う次第です。



東東海

土木 38 回卒 東東海支部(静岡アカシア会) 常任幹事 望月 克彦

令和元年8月24日(土)、静岡市内で、静岡県出身の在学生を対象として、企業・官庁合同のインターンシップを開催しました。主に3年生の学生33名と、OB18名(企業・官庁)の51名もの参加を頂き、現役の先輩の仕事ぶりを紹介しました。様々な業種で経験を積んだ先輩の生の声に対して、学生からは多くの質問を受けましたが、積極的に挙手をして質問をする熱心な学生の姿勢に大変刺激を受けました。その後の懇親会では、お互いの率直な思いを気兼ねなくぶつけ合い、大いに打ち解けました。学生達からは「今回学んだことを、これからの就職活動に活かしていきたい」「アカシア会の良い雰囲気がとても伝わりました」などの声が聞かれました。現役の後輩達には是非とも立派に巣立って欲しいと願うと共に、私達OBも今回のインターンシップを通して、後輩達の若さと情熱に触れて熱い気持ちが蘇ると共に、母校との繋がりを再認識できました。

最後に、今回このような会の開催にご理解とご協力を頂いた校友会の先輩方に、お礼申し上げます。



四国

建築 33 回卒 四国支部事務局長 鮎内 清二

令和元年度四国支部総会は8月17日(土)に校友会本部より城座隆夫副会長をお迎えして、徳島県より3名、愛媛県より3名、高知県より1名、香川県より18名の25名の出席により高松市内の料理店“おたるばんや”に於いて六車秀世四国支部長(土木16回)の進行により開催され、その後の懇親会を当日出席者の中で一番若い佐藤公一氏(土木45回)の発声で和やかに終りました。(写真①)

四国支部では各県校友会を六車支部長出席のもと開催して、きめ細やかな親睦を図っており、愛媛県校友会が7月27日(土)に樽井功氏(建築24回)の手配で、大洲市肱川の鵜飼舟を貸し切り出席者15名で開催されました。(写真②)

香川県校友会兼家族会は4月6日(土)に早谷川悟氏(建築31回)の手配で、校友17名と家族が出席して栗林公園の満開の桜の下で行われました。(写真③) この後、徳島県と高知県の校友会も計画しています。毎月第一木曜日、高松市内の居酒屋“はんぶん”での「一木会」も引き続き開催しておりますので、いつでもお気軽にお立ち寄りください。



今年の定例支部総会は令和元年 10 月 18 日に工学部校友会より杉崎一馬副会長、本部校友会より山下巧三副会長にご臨席いただき盛況のうちに終えることができました。まさに台風 19 号が母校に甚大な被害を与えている最中であることを杉崎副会長からのお話で初めて知りました。参加者は皆、杉崎副会長に持って来て頂いた災害の写真を見ながら驚きと心配と無念さとをにじませていました。山下副会長から義援金を集めたらどうだろうかと提案があり、参加者も全員賛同、急遽封筒を各テーブルに回して募金を募り、杉崎副会長に託しました。何が心配か、遠くから来ている学生たちが心配なのです。1 日、1 分でも元の生活に戻れるように願っております。さて、総会は年に 1 度ですが、この総会を行った平和楼の 3 階に「てんじん」というお店があります。そこで毎月第 3 木曜日に「アカシヤ会」という定例会を開いております。参加不参加自由出欠取らず。18 時半より開催しておりますので是非いらしてください。



教員部会

工化 33 回卒 事務局長代行 阿部 英敏

教員部会設立から今日に至る迄、母校・本会の為に大きな力をいただいた高崎格会長（建築 14 回）が令和元年 6 月 6 日に逝去されました。高崎会長は旭川工高時代の教え子である故行場義修氏と共に、設立時には北海道から何回も手弁当で準備会に参加されました。昨年からの会の重鎮を失ったことは本会にとって大きな痛手ではありますが、両先生の御遺志に報うように、会員あげて努力する覚悟であります。合掌。

前述のような暗い悲しい知らせもありましたが、明るい知らせとしては、北陸甲信越支部長として御尽力いただいております、久保田正氏（建 19 回・元新潟県立長岡工高校長）が『令和元年度春の叙勲』において『瑞宝小綬章』の荣誉に輝きました。先生は高田工高（現・上越総合技術高）教諭を出発点として教頭・県教委勤務の後、塩沢商工高校長に昇任。その後、県内屈指の伝統校である長岡工高校長に就任されました。先生には多くの校友教員がお世話になり、多忙の中、教職課程特別講演会にもご出席いただき後輩に大きなエールを送っていただきました。退職後も、体育会剣道部 OB として青少年の健全育成の為に地域の大きな力として、又、本会発展の為にご支援をいただいております。

本年度も、各支部を通して例年以上に活発な活動が行われており、『母校に優秀な後輩を送ろう』というスローガンのもとに、更なる発展に力を注ぐ覚悟であります。



～工学部校友会 校友企業の皆さんへ～

在学生のために校友企業の求人情報をご提供ください

日本大学工学部校友会会長 中野 伍朗 副会長 田村 賢一（工学部就職指導担当）

日頃より工学部の校友企業（オーナーが工学部校友の企業）の皆様には工学部の学部生と大学院生（共に日本大学校友会の準会員）の就職をご支援頂き御礼申し上げます。ご承知のように工学部の学生は全国から入学していますが、修学後は出身地への U ターン就職希望者が少子化の影響で増加しています。工学部では毎年約 1,000 名の卒業・修了生が巣立ちます。一方、求人は首都圏とその近郊が多く、地方の求人は少ないのが現状です。そこで、地方に U ターン就職希望の学生は公務員として戻るか大都市圏に不本意就職する事になります。

このため、昨年に続き工学部から工学部校友会に「校友企業の求人情報を学生のために活用させて頂きたい」との依頼がありました。本校友会では工学部就職指導課と連携し、平成 29 年度から工学部ホームページの求人情報サイト（CS navi）に「校友企業の求人情報」を掲載しました。

このように U ターン就職を目指す学生には地方の校友企業の求人は必要不可欠です。全国の工学部校友企業のオーナーの皆様、後輩の就職支援や御社の PR として求人情報をご提供くださいますようお願い申し上げます。

つきましては、御社の求人情報（求人申込書及び卒業生在籍者名簿）を工学部校友会までメール（校友会ホームページから）または郵送等でお送りください。なお、卒業生名簿等は個人情報保護に十分留意いたします。

末筆ながら、御社の益々のご発展を祈念いたします。

校友会組織

●卒業回早見表

回	卒業年（3月）
5 学科 情報	元号 西暦
1	昭和 28 1953
5	32 1957
10	37 1962
15	42 1967
20	47 1972
25	52 1977
30	57 1982
35	62 1987
40	平成 4 1992
45	1 9 1997
50	6 14 2002
55	11 19 2007
60	16 24 2012
65	21 29 2017

※ 5 年刻みです。

支部お問い合わせ先

●北海道支部
 支部長 横関 一伸(建 25)
 北海道札幌市豊平区美園11条5-2-9
 (株)横関工業内
 ☎011-831-6851

●四国支部
 支部長 六車 秀世(士 16)
 香川県さぬき市志度1178-4
 ☎087-894-1040

●九州支部
 事務局長 脇山 亨治(建 29)
 福岡県福岡市博多区板付4-6-33
 (株)北洋建設内
 ☎092-589-0151

●東海支部
 事務局長 乾 高章(士 32)
 愛知県名古屋市中区栄4-6-25
 川北電気工業㈱内
 ☎052-251-7111

●東東海支部
●教員部会
 事務局長 永田 進(建 22)
 静岡県焼津市本中根485-5
 ☎080-1626-6412

●北陸支部
 支部長 山本 久(士 31)
 新潟県新潟市秋葉区横川518-12
 ☎0250-38-4994

●関東支部
 支部長 小林 啓一(士 20)
 神奈川県横浜市港北区
 綱島上町1-1-4-822
 ☎045-546-2647

歴史資料編纂委員会からのお知らせ

歴史資料編纂委員会(編纂委員会と略称)は、平成 30 年 3 月に工学部および工学部校友会に関する「史料集」(写真 1)を刊行しました。これは、校友会設立 60 周年記念事業として行われたもので、A3 版の総頁数 852 頁に約 1 万枚に及ぶ写真を収録し、工学部と校友会の創立および設立時から現在に至る経緯を、写真中心の貴重な情報で編纂されています。この両史料集は、平成 30 年度の校友会通常総会懇親会で工学部に寄贈しました(校友会報 82 号参照)。

さらに、令和元年には、校友会報の創刊号から 82 号までに寄せられた記事から抜粋した「校友会報抜粋集Ⅰ(巻頭言、エッセー)」(写真 2)と、昭和 22 年から 44 年までの 22 年間、学生主体で編集され、発行され続けた学生新聞の、保存を目的とした原寸大複写合冊本(写真 3)を刊行しました。「史料集」とこれら製本版は、校友会事務局に公開してありますので、ご来校の折には是非ご覧下さい。

編纂委員会では、今後も「史料集」の内容の拡充を考えております。それには昭和および平成年代における工学部のキャンパス状況、各種行事、クラブ活動などに関する写真・史料等を必要としております。これらの史料をお持ちの方は、何卒ご協力下さい。

写真 1



写真 2



写真 3



(日本大学工学部校友会歴史資料編纂委員会)

台風 19 号被害から防災を考察する



日本大学名誉教授
土木 19 回卒 長林 久夫

工学部の浸水

令和元年 10 月 12 日に来襲した台風 19 号は千曲川や阿武隈川などをはじめとし、東日本を中心として未曾有の豪雨災害となり、甚大な人的、物的被害をもたらした。

この台風の豪雨により、工学部、東北高校では教室棟、研究棟の多くが浸水し、本館も 0.97m の床上浸水となった。開校以来の洪水被害であったが、早期の復旧をはかり、東北高校は 10 月 23 日(水)、工学部は 11 月 5 日(火)からの授業再開となった。この浸水による学生の被災は深刻で、学校周辺に住む約 2,000 名の学生の内、約 1,000 名が被災した。学生の中には、転居を余儀なくされたものもあり、多くが悲惨な災害を体験した。

浸水の要因は、学内を流れる準用河川の徳定川下流の古川池（阿武隈川旧河川）が排水されない内水と、永徳橋上流の阿武隈川右岸無堤部からの溢水（外水）である。無堤部は計画高水位程度の標高があり、堤防整備が遅れていた。この災害を受け、工学部ではキャンパス強靱化プロジェクトを土木、建築、情報の 16 名の研究者と郡山市の連携のもと、11 月 14 日に立ち上げた。学生の住環境と避難行動を浸水状況に合わせて分析し、キャンパス周辺も含めた防災力向上策を提案し、さらに研究を教育に役立て、防災意識の高い学生の育成をも目的とする。



阿武隈川の水害と平成の大改修

令和元年は 1919（大正 8）年の国営事業の開始から、阿武隈川改修 100 年にあたる。昭和以降、床上浸水や死傷者を出した水害は 19 回を数える。

記憶に残る水害は、後に阿武隈川 8.5 水害として知られる 1986（昭和 61）年 8 月台風 10 号と温帯低気圧によるもので、福島 4,140㎡/s、岩沼 7,540㎡/s、全半壊 111 戸、死者負傷者 4 人がある。郡山市では谷田川破堤による中央工業団地と逢瀬川破堤による食品団地の浸水被害があった。その後、1998（平成 10）年 8 月末、停滞前線と台風 4 号による福島 3,990㎡/s、岩沼 5,450㎡/s、全半壊 69 戸、死者負傷者 20 人の災害がある。局地的豪雨が 5 日間に及び、西郷村真船観測所の雨量が 1,267mm に達し、白河市を中心に堤防決壊や越水による甚大な被害である。

この災害を受けて国は阿武隈川に総額 800 億円に及ぶ改修事業を決定した。無堤地区の解消とボトルネック解消、堤防強化、内水氾濫防止からなり、1999（平成 11）年からの 2 年間で実施した。当時の新聞には「平成の大改修」40 年分の治水事業費に匹敵の見出しが躍った。

何故、阿武隈川では水害が多発するのか

阿武隈川の特徴は千曲川と同様に北に向う河川である。日本に来襲する台風は、近畿、東海地方から太平洋沿岸を北上することが多い。今次台風と 8.5 水害も同ケースで、洪水波が時速 35km 程度で流下し、雨域も時速 30km から 40km で北上すると流量ピークと雨域が重なり、一気に水位が上昇する。そのために、避難準備から勧告に至る時間は短く、また、上流から河口までの洪水ピークの時間差は 8 時間程度で、各地同時の対策が必要となる。排水ポンプ車の配置や避難体制など防災上厳しい対応が求められる。

第二の特徴は福島より上流に複数の狭窄部があること。須賀川滑川、郡山・本宮間、二本松・福島間の阿武隈峡、県境部の阿武隈渓谷があり、狭窄部上流で水位が上昇し易く、須賀川市、郡山市、本宮市、二本松市は水害が多い。

河川整備基本方針と河川整備計画とは

阿武隈川は宮城県岩沼市から須賀川市乙字ヶ滝までが大臣（国）管理区間で、流路延長 239km、その上流と支川は知事（県）管理区間の一級河川である。

河川整備は達成すべき長期的な目標

を定める基本方針と実現可能な整備と保全の具体の場所、内容等を定める整備計画からなる。河川整備基本方針は、目標を 1/150 確率（150 年に一度）とする。基本高水流量を岩沼で 9,200m³/s（10,700m³/s：洪水調節施設含む）、福島 5,800m³/s（7,000m³/s）、須賀川 2,400m³/s で、2004（平成 16）年 1 月に制定した。河川整備計画は、2006（平成 18）年からの 30 年間とし、戦後最大の 8.5 水害に対し、外水氾濫による床上浸水を防止する目標をもつ。河道配分流量を岩沼で 8,100m³/s（9,100m³/s）、福島で 4600m³/s（4,900m³/s）、須賀川で 1,500m³/s とする。

整備計画の基本方針に対する達成率は、岩沼で 90%、福島 80%、須賀川 60%であり、完了時でも基本方針の 1/150 は達成できない。

台風 19 号による災害は

台風 19 号の県内降雨は 12 日 1 時頃からの 24 時間で白河 305mm、須賀川 233mm、郡山 253mm、福島 230mm であった。国の防災科学研究所はこの台風の降雨確率を百年に一度超と発表した。福島市の 1/100 確率は 180mm であり、須賀川から福島までは 1/150 程度の降雨確率に相当し、想定を越える超過洪水である。須賀川、郡山、本宮で 13 日未明から 14 時間以上、計画高水位を超過した。国管理区間は破堤 1 箇所、越水・溢水 25 箇所あり、県管理区間は支川を含め破堤 30 箇所、越水は多数におよぶ。

福島県浜通りは県管理の 2 級河川で、計画高水流量は 500m³/s 以下の河川が多く、設計降雨は多くが 1/50 確率であり、1/70 確率の河川は少ない。浜通りの降水量は平 230.5mm、浪江 319.5mm、相馬 260.0mm で計画を越える超過洪水となり、11 河川 17 箇所破堤し、甚大な災害となった。

福島県では台風 19 号で全国最多の 32 人の尊い命が奪われた。24 人は溺死など水害による死亡で、65 歳以上の高齢者が全体の約 7 割を占めたという。

町内会は自主防災組織を兼ねることが多いが、郡山市の町内会加入率は平成 17 年 72.7% で、現在はこれを下回る。特に集合住宅の加入率が低く、転勤者や若年世帯は自主的な防災対応が必要で、家庭や友人、学校、事業所におけるマイタイムライン（防災行動計画）の検討が必要である。

減災まちづくりに向けて

国は 2015（平成 27）年 1 月東日本大震災を契機として、降雨確率 1/1,000 程度の、想定しうる最大規模の洪水及び内水・高潮に対するハザードマップの作成と公表を義務づけた。市町村は浸水対策のハード整備やハザードマップ作成、避難体制や避難所整備などの防災計画を含めたソフト対策を担う。

減災対策には水害を現実と捉えたまちづくりの概念が必要である。二本松市と安達町は 8.5 水害を受けて浸水危険区域の土地利用規制を条例化した。区域内の建築物は主要構造部を RC 造とし、河川堤防の高さ以下に居室をつくらない等の要件がある。滋賀県は水害に強い地域づくりを目指し「どのような洪水でも人の命は守る」、「床上浸水など生活再建が難しくなる被害は避ける」の理念のもと、流域治水条例を 2014 年に定めた。宅地かさ上げ補助、避難路確保の道路かさ上げ、50cm 以上の浸水域は新たに市街地化しないことや、宅地建物取引業者の“水害リスク”情報提供の努力義務化が含まれる。

古来より治水は百年の計と言われる。今次水害は 8.5 水害から 33 年にあたる。大水害を約 30 年に一度とすると、世代交代の時期に一致する。

浸水域にある大学として何を発信するか

日本大学は日本一教育力のある大学として自主創造型パーソン育成を掲げている。今回の水害で工学部の浸水が全国に大きく報道されたことには複雑な思いがある。

この禍を福に転じるには、全学共通初年次教育の自主創造の基礎における防災にかかわる討論や浸水標識作成、友人や地域で避難路・避難体制を確認するマイタイムライン作成なども良いと思う。また、災害ボランティアによる社会参加を可能にする科目など、さまざまなプランが思い浮かぶ。浸水域にある大学として発信できる可能性は大きいと考える。



福島県空撮映像（令和元年10月13日11:20）

日本大学工学部が推進する産学官連携活動 その3



日本大学工学部 電気電子工学科
教授 石川 博康

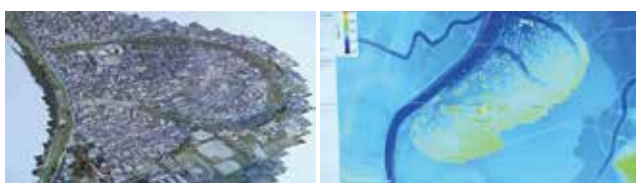
1. はじめに

日本大学として130周年を迎えた新しい令和の時代の始まりに際し、前任の柿崎隆夫教授から引き継ぎ、日本大学工学部が推進する産学官連携活動について、令和元年末までの状況を中心にご報告させていただきます。

まずは令和元年10月12日から翌日にかけて日本列島を縦断した台風19号による工学部及び東北高校における浸水被害に対し、工学部校友会の皆様をはじめ、日本大学の他学部、付属高校、福島県内の公共機関、多数の校友が在籍している企業等の多くの方々から気遣いのお言葉や支援のお申し出をいただきましたことにつきまして、紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

台風19号に伴う豪雨の影響により、工学部ではキャンパス内の建物の1階部分の多くが浸水被害を受けました。そのため、実験機材や測定機器など、産学官連携に係る研究活動のために必要な設備等が使用できなくなり、一部の研究室で例年通りの進捗や研究実績を得ることが難しい状況となっています。また、毎年恒例の産学官連携フォーラムを当初11月に予定していましたが、令和元年度は残念ながら中止するに至りました。このように産学官連携の取り組みに対して影響が出ていますが、従前の活動形態に戻すべく教職員及び関係者一丸となって取り組んでいますので、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、今回の大型台風によって支流を含む阿武隈川の氾濫や堤防の一部決壊が発生し、郡山市の広範囲で被害を受けたことから、工学部では浸水被害が拡大したメカニズムや効果的な対策を工学的な見地から提言することを目的として、土木工学科岩城一郎教授をリーダーとする「キャンパス強靱化プロジェクト」を早期に立ち上げ、郡山市と協力して同プロジェクトを推進することを令和元年11月14日に発表しました。本プロジェクトの内容は、令和2年3月14日に「ロハス工学シンポジウム」にて一般市民向けに中間報告として公開されます。本シンポジウムについては、機会があれば改めてご紹介したいと思います。



工学部周辺の浸水被害状況
(左：浸水被害前、右：浸水時の解析データ例)

2. 「ロハス工学」教育教材開発プロジェクト

日本大学工学部では、専門分野の異なる研究者による連携研究や産学官連携研究プロジェクトの推進を奨励し、研究活動の活性化及び学内外へ積極的なアピールを目的として、平成29年度に工学研究所プロジェクトを立ち上げています。その中で、「ロハス工学」教育教材開発プロジェクトがあります。ロハス（LOHAS）とは健康で持続可能な生活様式（Lifestyles of Health and Sustainability）のことであり、ロハス工学とはその考えを工学により社会実装することを目指した工学部独自の教育・研究方針といえます。過去20年にわたりロハス工学に基づく様々な研究開発・教育・社会実装がなされてきましたが、これまで教育教材として位置付けるものは存在しませんでした。そこでロハス工学に関する教育教材の開発と教育カリキュラムの構築を目指し、同プロジェクトがプロジェクトリーダー／統括&インフラ担当である岩城一郎教授によって平成30年に立ち上げられました。同プロジェクトでは、土木工学科中野和典教授が水環境、建築学科浦部智義教授が住環境、機械工学科伊藤耕祐准教授がロハスの家、電気電子工学科村山嘉延准教授が医療工学、生命応用化学科春木満教授がバイオ、情報工学科大山勝徳准教授がドローンを担当しています。その成果として、「ロハス工学」と題した書籍が日経BP社より出版されることになり、平成31年2月23日にプレス発表が工学部において行われ、出村克宣工学部長が出版に至る経緯を、岩城一郎教授がロハス工学編集委員会委員長として書籍「ロハス工学」の内容を説明されました。また、同日午後には、出版を記念して、市民公開シンポジウム第8回ロハスの工学シンポジウムが「ロハスの工学のこれまでを振り返り、これからを考える」と題して開催されました。同シンポジウムでは加藤康司工学部上席研究員による基調講演が行われ、過去20年にわたるロハス工学に関する取り組みとその成果、将来への期待が述べられました。さらに、ロハス工学に関する民



日経BP社より出版された書籍
「ロハス工学」



「第8回ロハスの工学シンポジウム」におけるパネルディスカッションの様子

と学の連携事例として、医療法人仁寿会菊池医院理事長・院長／認定NPO法人郡山ペップ子育てネットワーク理事長の菊池信太郎氏による「LOHASの子どもたちの成育環境の創造を福島から」と題し

た基調講演が行われ、ロハス工学のコンセプトを取り入れた新しい診療所について紹介されました。その後、「ロハス工学」教育教材開発プロジェクトメンバーによるロハスと各専門分野との関係について説明がなされました。なお、同書籍は2019年度大学院カリキュラムで開講された「ロハス工学特論ⅠおよびⅡ」で活用されています。今後、ロハス工学の理念やベースとなる工学的な知識を習得したエンジニアの輩出による社会や産業界への貢献が期待されます。

3. 福島ロボットテストフィールドとの協定締結

令和元年9月20日に工学部と福島ロボットテストフィールド(RTF)との間で、「福島ロボットテストフィールドを活用した社会インフラの長寿命化に関する研究開発及び人材育成並びに福島イノベーション・コースト構想の推進に関する協定」が締結され、出村克宣工学部長と鈴木真二福島ロボットテストフィールド所長により協定書が調印されました。工学部では「ロハスのドローンプロジェクト」において、これまでもドローンをを用いた様々な研究活動が行われてきましたが、特に様々な劣化橋梁の詳細調査やロハスの橋をはじめとする高耐久橋梁の研究開発が、岩城一郎教授を中心としてコンクリート工学研究室において進められてきました。同協定に基づき、これらのモデルをRTFに設置することで、ドローンをはじめとした様々なロボットによる構造物の点検・診断を目的とした実証試験を効率良く実施することが可能となります。なお、協定締結に引き続き記念シンポジウムが開催され、出村克宣工学部長と鈴木真二所長の挨拶に続き、国土交通省国土技術政策総合研究所道路構造物研究部の木村嘉富部長による「国土強靱化とドローンへの期待」と題した基調講演が行われました。次に、本学部教員による「ロハスのドローンプロジェクト」の中間報告が順次なされ、最後に福島県庁ロボット推進室の北島明文室長がコーディネーター役として関係者によるパネルディスカッションが行われました。同パネルでは産学官の代表者による橋梁点検に係る検討状況や将来への期待等が述べられ、好評のうちに終了しました。



協定書の調印式の様子（左：出村克宣工学部長、右：鈴木真二福島ロボットテストフィールド所長）

4. ロハスの花壇の設置

産学官連携の具体的な成果として、福島県双葉郡葛尾村の復興交流館敷地内に中野和典教授により開発された「ロハスの花壇」が設置され平成30年12月4日にその報告会が葛尾村において実施されました。工学部は平成27年に葛尾村と復興支援に関する包括連携協定を締結していますが、本件は福島イノベーション・コースト構想促進事業である「住民と学生との協働による『ロハスビレッジかつらお』復興まちづくり」の取り組みの一

つとして実施されたものであり、「ロハスの花壇」は公衆トイレの浄化槽排水を高度処理して再生水とし、修景用水（周囲の景観を考慮して造られ、噴水などで使用する水）として利活用できることを



福島県双葉郡葛尾村の復興交流館敷地内に設置された「ロハスの花壇」

特徴としています。なお、ロハスの花壇は工学部キャンパスや郡山市湖南浄化センターにも設置されていますが、下水処理と緑化を組み合わせたグリーンインフラとしての社会実装が期待されています。

5. 未来の起業家育成事業シリコンバレー視察研修

最後に学生の活躍に関するトピックスを一つ報告したいと思います。福島県の「リーディング起業家創出事業」としてアカデミア・コンソーシアムふくしまを主管とする「未来の起業家育成事業」のうち、福島県内の大学生・高等専門学校生を対象とした「シリコンバレー視察研修」が平成31年2月17日～22日に実施され、本学部電気電子工学科4年の岩瀬詩帆さんと石川恒平さん、情報工学科1年の福島剣慎さん（何れも当時）が選出され、同イベントに参加しました。視察研修は、福島県内における将来の起業家人材の育成を目的としており、3人は事前のプレゼンテーションや英語での自己PRによる選考を見事クリアしました。起業の本場であるシリコンバレーでは、世界最先端のビジネスを手掛けるベンチャー企業を中心に6社を訪問して最新技術やアプリケーションに触れるとともに、自分で考えたビジネスアイデアを英語でプレゼンテーションし、プロに意見をもらうという大変貴重な経験を積むことができました。本プログラムは令和2年度まで継続され、令和元年度も複数名の工学部学生がチャレンジしています。このような海外研修を経験した学生が将来起業を目指し、産業界で活躍することが期待されます。



シリコンバレー研修に参加した岩瀬詩帆さん、石川恒平さん、福島剣慎さん

以上、工学部における産学官連携に関する取り組み状況について、ここ1年間の主なトピックスを紹介しました。この他にも様々な研究プロジェクトが進行していますので、機会があれば改めてご報告したいと思います。また、工学部では研究事務課を窓口として「ものづくりアドバイザーカタログ」の提供など、産学官連携に積極的に取り組んでいますので、工学部のホームページ等を是非ご覧ください。

環境影響の少ない風車の開発



建築学科 環境工学研究室
博士2年 長島 久敏

私が所属する建築学科・環境工学研究室では建築音響や環境騒音に関する研究に取り組んでいます。2013年度からは、新たに国立研究開発法人産業技術研究所福島再生可能エネルギー研究所と連携し、風力発電から発生する騒音に関する研究を行っています。風力発電は現在、世界的に導入数が急激に増えており、EU圏では既に原子力・火力発電（LNG）に続く主要電源となっています。日本国内でも洋上風力が注目されており、今後風力発電の導入が増える見通しとなっています。一方で、風車から発生する騒音による健康影響が懸念されています。近年の風車は大型化が進み、1箇所に多数基設置されるウインドファームがほとんどであるため、設置に伴う環境影響を無視出来ません。なかでも、風車から発生する騒音・低周波音は健康影響の面で問題となっており、現状では騒音レベルの厳しい規制によって被害を防いでいる状況です。私の研究ではこの風車騒音を高精度に予測する技術を開発し、騒音被害の縮小化を目標としています。風車騒音はブレードの音源位置を高精度に同定することで局所的な翼形状の変更のみで騒音を低減化することができます。音源の同定実験には写真のような特殊な音響測定システムを構築し、実際に運転している風車の上に持ち込み測定実験を行います。実験によりブレードから発生する音源は複数ある事がわかり、後縁部分の剥離渦から強い空力音が放射されている事がわかりました。今後はブレードの剥離渦が小さくなる際の風車の制御状態を実験的に解明し、真のクリーンエネルギーとして風力発電が世界に普及されるよう、環境影響の少ない風車の開発に寄与していきたいと考えております。



マイクアレーによる風車翼音源の同定実験

ペーパークラフトに魅せられて



建築学科2年 大越 康貴

私は紙を使って作品を作るフルスクラッチペーパークラフトを趣味としています。特に好んで作る作品は1/1000スケールの艦船模型です。戦艦や空母といった艦船の持つ魅力的な曲線の船体や、武骨な構造物を、失敗を繰り返しながらコツコツと組み上げて再現していくのは根気がいりますが、完成した時はこの上ない達成感を味わうことができます。

そんなペーパークラフトの楽しさに私が気付いたのは、小学校に入学するかしないかという年齢の頃です。物心ついた時から本やテレビ画面の向こう、外出先で力強く動き回る機械や乗り物に心奪われ、身の回りにある材料でそれらのミニチュアを作って遊ぶことが好きだった私に、両親がある日プレゼントしたのは、ペーパークラフトの展開図を纏めた本でした。一枚の紙を切り貼りしていくと、かっこいい乗り物が現れるというペーパークラフトの不思議な魅力に取りつかれた私は、暇さえあれば自分の気に入った航空機や車、艦船を「紙」で作るようになりました。

成長するにつれ、私は幼少の頃には扱えなかったナイフや接着剤といった道具に手を出せるようになりました。組み立てた部品に精度を求めることが可能になってから、自らが作るペーパークラフトにさらなるディティールを追い求めるようになった私は、既存の展開図をただ組み立てるだけでは満足できなくなり、すべての部品を一から自分で設計するようになりました。材料や道具にもこだわり、自分自身のやる気と腕次第で小さい作品や細かい作品も作りこめるようになってからは、ますますペーパークラフトにのめりこむようになっていきました。

日本大学工学部に入学してからは、製作の拠点を所属している美術部の部室に移し、部室の狭さに苦勞しながらも、「前作よりも細かく」「前作よりも美しく」をモットーに日々製作に取り組んでいます。



郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター 校友企業家紹介



株式会社 benefic

小林 聖 さん

(機械 54 回卒)

私は須賀川市生まれの須賀川市育ち、生粋の福島県人です。高校は郡山市の安積高校に通っていましたが、この頃から「将来は何か新しいこと、楽しいことをしたいな」という思いが胸の中にくすぶっていました。

大学を卒業後はプラント製造の会社に勤め、新技術の開発や研究の日々を送っていましたが、そのような日々の中でも「何か新しいことをしたい」という思いは叶わず、東日本大震災も経験した 30 歳頃から、お世話になった地元や大学のために何か始めたい！と強く思うようになりました。

そこで、高校時代や大学時代の友人、後輩とともに IT 事業に関する新しい会社を立ち上げました。第三者検証という比較的新しい分野でホームページや EC サイト、アプリケーションやゲーム、様々なソフトウェアの不具合や UI/UX の品質保証・ユーザビリティ（使用感）の評価を行うというものです。

近年では企業が発信するサービスや情報と、消費者・顧客の距離が大変近くなっています。そのため、ホームページやアプリケーションの品質をテストし向上させることが、会社のイメージアップや顧客満足度・レビュー評価の向上に直結するのです。

特に、昨年 6 月からは日本大学工学部内「郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター」にラボを開設させていただき、毎年全国から 1,000 人もの若いパワーが集まる母校日本大学工学部と連携できるようになりました。若い世代の意見を吸い上げられるサービスを提供できるのは、弊社の強みでもあってと思っています。

また、最近では福島県内の企業様と e スポーツ振興に向けて e スポーツスタジアム郡山の設立、農業研究団体「スマートアグリふくしま」を立ち上げ農業と IOT 化に向けて「ふくしまベンチャーアワード 2019」への参加、子供向けプログラミング教室の開催等、地域活性をテーマに様々な新規事業やイベントに取り組んでいます。

福島県内外様々な方々・企業様にご挨拶させていただいておりますので「benefic (ベネフィック)」の文字を見かけましたら、お気軽にお声がけください。

URL <https://benefic-it.com/>



株式会社エムケー技研

諸根 理仁 さん

(機械 62 回卒)

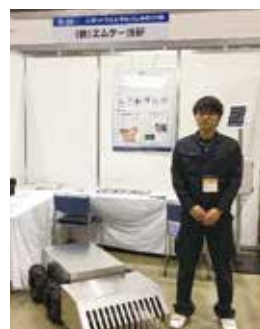
私は福島県出身で日大工学部を卒業後に福島県外へ就職しましたが、2018 年に地元福島へと戻り、大学の同期と共に株式会社エムケー技研を立ち上げました。弊社の主な事業はソフトウェアの受託開発です。主に郡山市内の企業からお仕事を頂いており、距離の近さを活かして密に連絡を取りつつ開発できるのが弊社の強みです。技術分野としては画像処理、AI、IoT 関連技術に強みがあると思っています。

受託開発だけでなく、今年度からは自社製品の開発にも取り組んでいます。一例として大規模太陽光発電施設を対象とした除草ロボットシステムの開発や、配線不要で乾電池 2 本で 1 年以上駆動可能な監視カメラ AiMO の開発を行っています。除草ロボットおよび監視カメラ AiMO は 2019 年 11 月に郡山市のビッグパレットふくしまで開催された「ロボット・航空宇宙フェスタふくしま 2019」にて展示することができ、開発が進んだ手応えを感じることができました。なお、監視カメラ AiMO は 2020 年 3 月末に販売開始予定であり、それに向けた準備を進めているところです。

2019 年 4 月から日本大学工学部内にある「郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター」に入居し、母校である日本大学工学部と連携しつつ製品開発に取り組んでいます。また、インキュベーションセンターには弊社以外にも校友が経営する企業が入居しており、共同でソフトウェア開発や新規事業の実現性調査を実施するなど、連携しつつ事業を進めることができている、校友の繋がりを実感しております。

最後になりますが、弊社では今後もソフトウェアの受託開発を行って参ります。開発でお困りの際はぜひ気軽にお問い合わせください。校友の皆様と一緒に仕事をさせていただければ幸いです。

URL <http://mk-rd.co.jp/>



ロボット・航空宇宙フェスタふくしま 2019

カメラは配線なしで、しかも年単位で電池交換不要！※2



監視カメラ AiMO の概要図

私のラグビー人生と日本ラグビーの飛躍



東芝ブレイブルーパス

機械 49 回卒 大野 均

2000 年度工学部卒業、現在はラグビートップリーグ東芝ブレイブルーパス所属の大野均です。小学校から高校まで野球をしてきた私は、大学入学後も野球を続けたいと思っていました。しかし、大学入学直後、私の運命を大きく変える出会いがありました。それが、ラグビーとの出会いです。

入学式直後、大学の野球部の門を叩こうとしていましたが、いきなり両脇を屈強な先輩達に抱えられ、半ば引きずられるように連れて行かれたのが、ラグビー部の部室でした。そこで名前と電話番号を書かされると、そこから毎日のように勧誘の電話がかかってきました。野球部に入りたいので、と断ろうとする私に、先輩たちはあの手この手の口説き文句でラグビー部に引きずりこもうとしてきました。そんなに熱心に誘ってくれるなら、一度くらいグラウンドに顔を出さないと失礼だと思い、ラグビー部の練習を見学に行きました。しかしそこに、半ば強制的にしかたなく行ったそのグラウンドに、この人達の仲間に入りたい、と思わせる熱がありました。工学部の専攻学科の実習やレポートなどで手一杯のはずなのに、きつい、汚い、危険なラグビーをその人達は真剣に楽しんでいました。そして、部員数もままならない弱小ラグビー部が発していたその熱は私が在学した 4 年間、変わらずそこに在りつづけました。部員数も 1 チーム作れるかどうかの弱小ラグビー部だったからこそ、上級生・下級生関係なく、どうしたら勝てるか、本気で考え意見を出し、部員が少ないことを言い訳にせず、強くなるための練習を考え、どんなにつらくしんどい時でも、仲間の為にグラウンドに立ち、チームの為に身体を張る、



ラグビーに必要な根柢のタフさを、その工学部のラグビー部で教わり、身に着けることが出来たんだと思います。4 年後、東芝にラグビーで採用され入社したのにも関わらず、当時のラグビー部の監督から、ラグビーはど素人、と言われるほど、ラグビーに関しては無知でした。しかし、ラグビーを媒体として、大学の先輩、同期、後輩から私は本当にいろんな事を学び、感じ、考えさせられました。私は弱小ラグビー部だったからこそ、今の自分があると信じています。

ラグビーを始めた時、まさか自分が社会人チームの強豪でプレー出来るなどとは、微塵も思っていませんでした。だけど、目の前の一回一回の練習を真剣に、がむしゃらに取り組んできたからこそ、社会人の強豪チームでプレーするというチャンスを掴むことができたんだと思います。社会人一年目、無名の弱小チーム出身の自分が、日本代表ひしめくこのチームで、本当に通用するのか、不安しかありませんでした。しかし、その不安を少しでも払拭できるのは、練習することのみでした。人よりも少しでも多く汗をかくことを積み重ねた結果、日本代表にも選出され、国を代表して世界と戦う舞台に立つことができました。

2015 年、イングランドで開催された、4 年に一度のラグビーワールドカップで、我々日本代表は、優勝候補の南アフリカを破りました。そして、過去のワールドカップにおいて、たった 1 勝しかできなかったチームが、1 大会で 3 勝を挙げることができました。ラグビー日本代表は、世界においては弱者でした。前々回のワールドカップからそこに至るまでの 4 年間、我々日本代表はエディー・ジョーンズ監督の下、世界一と言われた練習量をこなし、時には理不尽に感じるほどのトレーニングを積み重ねてきました。

その当時、私は 37 歳。普通であればラグビー選手としてのピークは越えていると思われても仕方のない年齢です。それでも、ほとんどが 20 代の若い選手達と、身体をぶつけ、汗をかき、もがきながら、必死の思いでワールドカップ最終メンバーのキップを掴むことが出来ました。

そして、私の日本代表として国際試合に出場した 95 試合目が、あのワールドカップの南アフリカ戦でした。国際試合で 95 試合出場は当時の日本人の歴代最多出場数で、37 歳という年齢で迎えたその試合が、まさか自分の選手キャリアにおいて、最も輝かしい結果となり、日本のみならず、世界中の人から「感動した」と言ってもらえる世紀の番狂わせになるとは、試合前の当時の自分は想像もできませんでした。もし 1 万人の人に聞いたら、1 万人全員が、日本が勝つなんて答えなかったと思います。それを現実にしたのが、つらくても逃げずに目の前の練習に向き合った 4 年間の積み重ねでした。

2019年に日本で開催されるワールドカップを成功させる為にも、2015年のこのワールドカップで何かしらの良い結果を残さなければ、自国開催のワールドカップの成功は為しえないという危機感を当時の日本代表メンバー全員が胸に秘めていたからこそ、過酷なハードワークに取り組み、それを乗り越え世界に大きなインパクトを与えることが出来たのだと思います。

2015年のワールドカップ期間中、怪我人が出て、バックアップメンバーとのメンバーの入れ替えをしなかったチームは、日本代表チームだけでした。それは4年間のハードワークによって、日本代表が世界と対等に戦えるだけのフィジカルとフィットネスを持ったチームだったという証明であり、それこそが3勝を挙げた原動力だったと思います。

2019年日本で開催されたラグビーワールドカップでは、日本中がラグビーというスポーツで、興奮と感動に包まれました。ハードワークの先に何があるのかを知っている、2015年のワールドカップを経験したメンバーが主体となって、2019年までの4年間で、ニュージーランド代表やオーストラリア代表、イングランド代表など世界の強豪国と体をぶつけ合い、今までにない経験を積み上げ、歴代過去最強の日本代表がそこにありました。そしてラグビー憲章にある品位、情熱、結束、規律、尊重を体現し、ベスト8進出という快挙を成し遂げてくれました。一人一人が己を犠牲にしてボールをつなぎ、勝利に向かうその姿から、日本人が忘れかけていた何かを、思い起こさせてくれたと感じた人は少なくなかったのではないのでしょうか。2023年フランスで開催されるワールドカップでは、さらなる高みを目指し、日本がラグビーの強豪国として世界中に認められるよう、私も微力ながら尽力していきたいと思います。

大野さんの 著作を ご紹介します



はじめてのラグビー
単行本:¥1,650(144ページ)
出版社:世界文化社
発売日:2019/5/17



**RUGBY日本代表に捧ぐ
桜、咲け!**
単行本:¥1,540(208ページ)
出版社:廣済堂出版
発売日:2019/7/3



ラグビーに生きる
単行本:¥1,650(207ページ)
出版社:ベースボールマガジン社
発売日:2013/5

頑張り記



挑 戦

株式会社アイ・ディー・システム
情報 19 回卒 渡邊 凌

私は、父がコンピューターメーカーに勤めている影響もあり、幼少期からパソコンに触れる機会が多かった為、その経験を生かしたいと思い、生まれ育った福島県にある日本大学工学部情報工学科に入学しました。

入学式を控えた春、東日本大震災が起きました。福島県においては放射線による健康被害が大きく取り上げられていた為、このまま住めなくなってしまうのではないかと不安に駆られながら大学に通っていたことを今でも鮮明に覚えています。

そのような経験に対し、自らの手で何かできることはないかと考えた結果、研究室入室後は無人航空機を用いた放射線量の測定をテーマに挑戦し、取り組んで参りました。

卒業後は独立系のSI企業に就職し、大規模システムの開発・保守を経験した後、現在は福島県西郷村に所在する株式会社アイ・ディー・システムに所属しております。

弊社はワイヤーハーネスの専門メーカーである株式会社アイ・ディー・システムから分社化し2015年に設立された若い会社になります。現在の従業員は5名になりますが、私が入社した当初の従業員は2名であり、親会社向けのソフトウェア開発が主になっておりましたが、弊社が持ち合わせている製造業向けのシステム開発に対するノウハウと、自身が前職で取得した知識を融合することで、今では他の製造会社への展開のみならず、他のシステム会社から業務委託を受けるまでに成長することができました。

また、SEとしてシステム開発を行うだけではなく、今まで経験したことのない会社経営ならびに営業活動に対して主体的に挑戦することで、多くの引き出しを持つエンジニアに成長することができただけでなく、業種や年齢を問わず、多くの仲間たちと接する機会を得ることができ、充実した日々を過ごすことができています。

これらの経験の中で、今自分がやりたいことやできることに全力で挑戦した結果、それが自分の知識や経験となり、決して奪われることのない財産になることを学びました。

私自身も今後も様々なことに挑戦し、自身の価値を高めていくとともに、社会の発展に貢献できるように邁進して参ります。



日本大学工学部校友会各位

令和2年3月1日

校友会会長 中野 伍朗

令和2年度 通常総会通知

本会会則第11条により、日本大学工学部校友会令和2年度通常総会を下記の通り開催いたします。皆様には年度始めにあたりご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、多数ご出席くださいますよう、御通知申し上げます。

1. 日 時／令和2年4月18日(土) 13時より
2. 場 所／日本大学工学部50周年記念館 3階
3. 議 題／(1) 令和元年度会務報告および決算報告
(2) 令和2年度事業計画および予算審議
(3) 役員改選
(4) その他
4. 懇親会／15時より同会場2階

第40回 母校を訪ねる会

日 時／令和2年11月1日(日) (予定)

場 所／日本大学工学部50周年記念館を予定

今年度は18回、28回、38回、48回、58回の卒業生が対象ですが、台風被害により、昨年の母校を訪ねる会が中止となったこともあり、招待学年については現在調整中です。詳細が決まり次第、当会ホームページにてお知らせ致します。尚、招待学年の皆様には改めてご案内状を送付致します(8月発送予定)。



挿画について



古橋 栄吉 さん (建築学科8回卒：郡山市在住)

古橋様におかれましては、転居の最中にも関わらず、前号に続き御協力をいただき、氏が描いた「花と果樹」のスケッチを今号も表紙・他頁に掲載させていただきました。深く感謝申し上げます。

校友会報 第83号

発 行 者	日本大学工学部校友会 福島県郡山市田村町徳定字中河原1 郵便番号 963-1165 電話番号 024-944-1327 FAX番号 024-944-1327 URL : http://www.nichidai-ce-koyukai.com
発 行 部 数	51,500 部
発 行 日	令和2年3月1日
発行責任者	校友会会長 中野 伍朗
編集責任者	広報委員長 千代 貞雄